

### 中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

#### 学校教育目標

心豊かに学び合い、ともに伸びる子」  
 ○豊かな人間関係の中で学び合い、自分の考えを深める子を育てます。(知)  
 ○相手の心を思いやり、共に生きていこうとする子を育てます。(徳)  
 ○心身の健康を大切にし、自分や生命を尊重する子を育てます。(体)  
 ○地域の人やものとのつながりを大切にし、地域と共に生きる子を育てます。(公)  
 ○広い視野で物事をとらえ、豊かな生活の向上に取り組む子を育てます。(開)a2

#### 教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

○自ら学び、鍛え、高める  
～基礎学力の定着～  
○自分を磨き、ともに輝く  
～豊かなコミュニケーション能力を  
発揮できる子～

#### 具体化した資質・能力

ア:文字などへの関心・意欲 イ:健康な心と体 ウ:思考力の芽生え  
エ:自立心 オ:社会生活との関わり  
カ:言葉による伝え合い キ:協調性

#### 中期取組目標

「チーム小机」として全職員で愛と情熱、使命感をもち、夢と希望、そして活力と魅力に溢れた学校づくりを目指します。  
 ○あいさつを大切に、人と豊かに関わり、児童一人ひとりが互いのよさを認め合い、自分らしさを発揮できる学校づくりを目指します。  
 ○個に応じた指導を充実させるとともに、児童に「確かな学力」(基礎・基本と問題解決力)をつける学校づくりを目指します。  
 ○学習・生活面でのスタンダードを大切にしながら、物事の善悪を正しく判断する心・規範意識を育てます。  
 ○体力向上に向けての実践を推進し、学校生活の中での体力向上に取り組めます。

### 学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①探究的、問題解決な学びによって学ぶ意欲と学ぶ力を身に付けるように、カリキュラムの運用による見直しコロナ禍においてもできる限り、対話的な学びの確保を意識した授業改善に努める。②基礎・基本の定着を図るとともに、自ら分かった経験をもってパワーアップタイムや家庭学習に臨めるように授業改善を図る。
担当	角田 有光

#### 学力向上に関わる本校の状況

○児童アンケートから  
・自分の思いを表現することが苦手な児童が多い。  
→少数での話し合い活動や自己表現する機会を設けるなど、制限がある中でも工夫していく。  
→成長を実感できるように、キャリアパスポート等を生かして活動を振り返る。  
・「挨拶ができた」と答えた児童の割合が減少。  
→挨拶の意味を考え、自分から進んで気持ちよく挨拶できるように指導を継続する。  
○保護者アンケートから  
・多くの項目で「できた」割合が90%以上(昨年度と比べて割合が大幅に上昇)。  
→必要に応じて改善しながら、児童にとってよりよい学校を目指していく。  
・「おさんは積極的に挨拶できなかった」と答えた保護者の割合が増加。  
→教師が模範となり、児童に姿勢を示していく。

#### 今年度の目標

「気付く」「伝え合う」ことを楽しいと感じる、児童の対話の深まりと自己変容の実感の向上を図る。

#### 目標を実現するための具体的行動プラン

話す・聞くの基礎的能力(姿勢・話型)を育成します。  
 友達の意見を聞いたり話したりするグループワークを取り入れ、学んだことを振り返ることで、学びを確かなものにしていきます。(3年 ペア・4年 小グループ等)  
 課題解決の手段としてグループワークを行い、友達との対話を通して学びを深めます。  
 基本的な学習のルールを身に付けるとともに、課題に繰り返し取り組むことで、知識の定着を図り「できた」という成功体験を重視します。  
 「【小机版】国語で育てる資質・能力の育成」を活用しながら、育てたい力を共有し、手立てを明確にする。

上半期  
下半期

### 豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①コロナ禍で制限されているが、小机小の特色を高学年から低学年に伝えていけるようにたてわり活動異学年交流で仲を深めたり、中国との交流など積極的に生かしたりを工夫していく。②自己肯定感を高めることができるように、学習や活動を行う中で各学年に合ったあてをもち、振り返ることで、達成したことを認め合うようにする。
担当	二川 黒木

#### 豊かな心に関わる本校の状況

素直で元気な子が多く、保護者ボランティアなど地域の協力も多く得られている。挨拶をする子が多く、高学年の子どもが進んで「あいさつしよう」と呼び掛けている。  
 生活の目標をしっかりもち、達成感をもつ子が比較的多い反面、学習の必要感が低い・自己肯定感が低い子が高学年ほど多くなっていく。  
 また、自分の考えを表現できない・規範意識が低く、人との関わり方が未熟であるという子もあり、対人的なトラブルになってしまう場面もある。

#### 今年度の目標

より良い人間関係を築いていこうとする姿を価値付けるとともに、関わり合いを通して自己肯定感を高め、自分も他者も大切にすることを育てる。

#### 目標を実現するための具体的行動プラン

・全校遠足や運動会、たてわり集会やわくわくランチなど、たてわり集会を通してつながった異学年との関わり合いを大切に。また、中国和平小との交流を通して、相手を尊重したり、文化の違いを受け入れたりする広い心を育てる。

・様々な活動後(各行事・たてわり・特別活動等)の振り返り活動を充実させ、自分自身の成長・頑張りに気づくことができる。

上半期  
下半期

### 健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①児童が楽しみながら基礎体力を高めることができるように、KSGの時間等を活用してコロナ禍でも継続して運動不足解消や意欲的に運動に取り組めるように内容を工夫する。②コロナ対策を充実し、子どもに健康を意識した生活習慣の定着を図るとともに、安全な学校となるように情報共有と改善に努める。
担当	角田 鈴木

#### 健やかな体に関わる本校の状況

・男子も女子も握力が低い  
 ・男子も女子も反復横とびが高い  
 ・男子は体を動かすのが好き  
 ・男子も女子も運動は大切と感じている  
 ・男子も女子も5時間以上の割合が多い  
 ・男子は体育が楽しい。女子は体育が苦手  
 ・体を動かしてきた経験が不足している  
 ・自分を苦手だと思い込んでいる  
 ・できないことを見られるのがはずかしい  
 ・間違った動きを体に刷り込んでいる(修正するのに時間がかかる)

#### 今年度の目標

・体を動かす経験を低学年から増やす  
 ・「できた」「わかった」を感じる授業  
 ・できないことを見られてもいい雰囲気をつくる  
 ・正しい動き方が身に付くように指導する

#### 目標を実現するための具体的行動プラン

KSGや体育学習を通して、運動を楽しむ豊かな心を育成します。  
 KSGに取り組む意欲を高めたり、個に合った場を設定し、できた喜びを体感させたりすることで、体を動かす楽しさを味わえるようにします。  
 児童が明確なあてをもち、KSGや体育学習に取り組めるように、学習カードを活用します。保健学習の充実を図るために、養護教諭・外部機関・地域との連携を図ります。  
 ゲームの要素を取り入れることで、体を動かす楽しさを味わわせ、多様な運動を経験する機会を確保します。

上半期  
下半期